在宅復帰支援を考える
～複合型住居の取り組み～

北海道　札幌市
介護老人保健施設　セージュ山の手
支援相談員　奥田　麻依

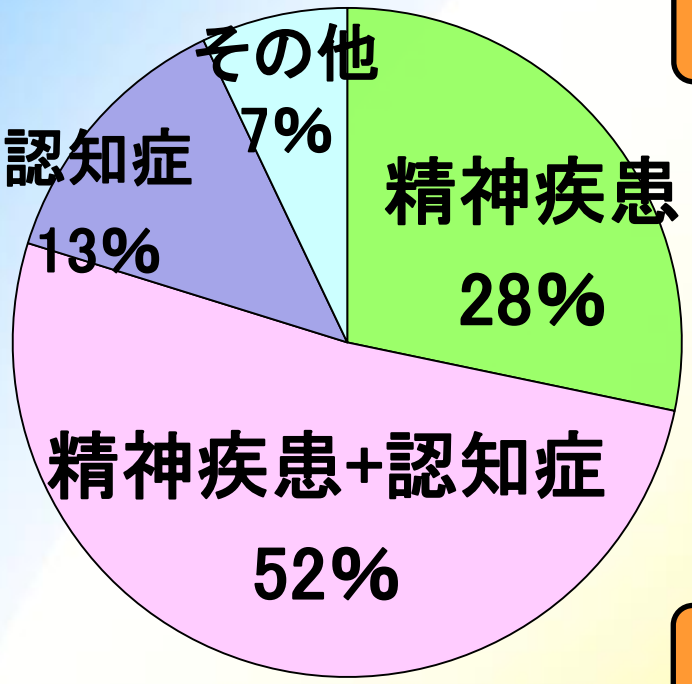
【施設概要】

・施　設：病院併設型（精神・神経科）
・定　員：入所　80名（うちショートスティ7名）
　　通所リハビリテーション　50名

平均在所日数
（平成24年4月）
729日

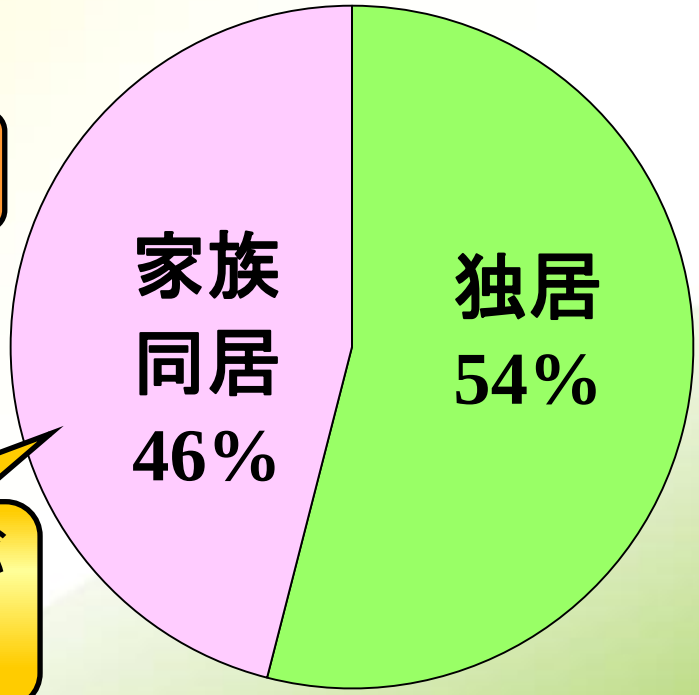
【長期化の要因】

疾病別



精神疾患が約8割
支援困難ケースが多い

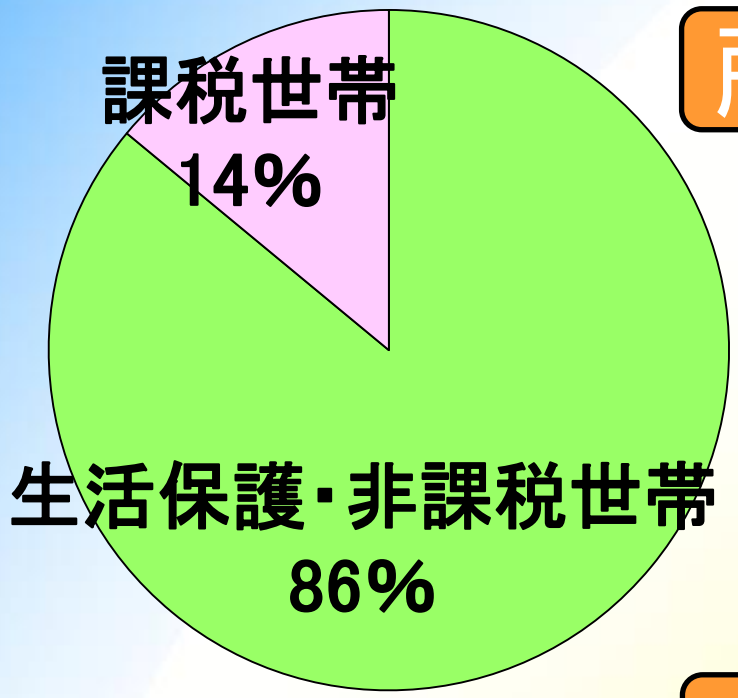
世帯状況



6割以上が
老老介護

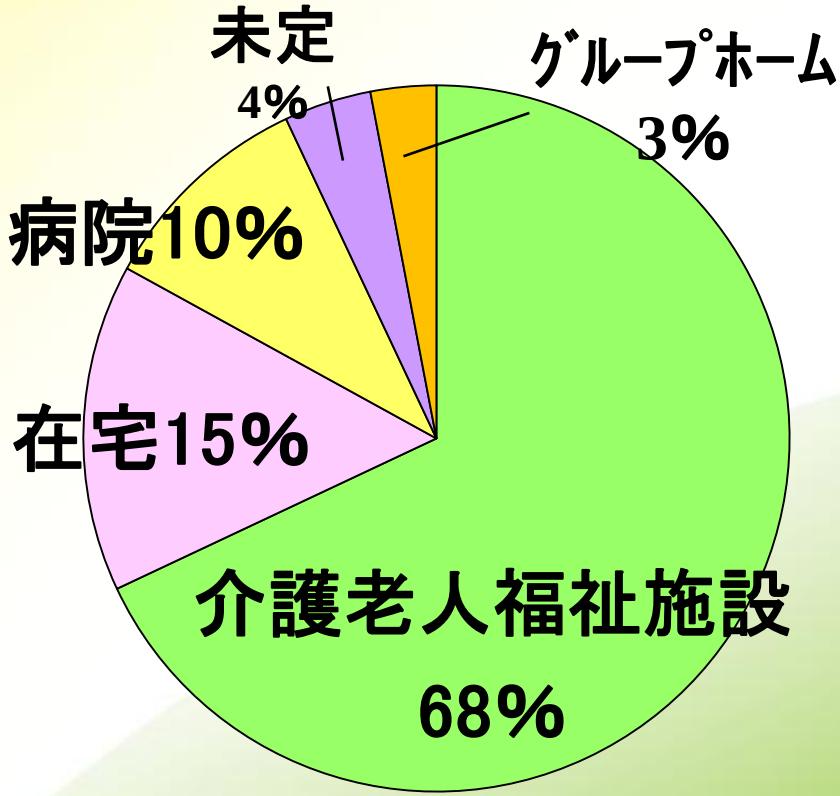
独居・老老介護が多く
家族支援困難

所得状況



方向性の選択肢が
限られる

方向性



介護老人福祉施設の
入所待ちが約7割

低コストで利用できる施設の必要性

職員女子寮（りら）

空室

複合型住居へ

【施設概要】

1階　高齢者住居

2階　精神障がい者住居

3階　職員寮　　（各階　6室）

1室：食堂兼談話室

対象者：女性5名

備え付け物品：ベッド、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、電話

【複合型住居（りら）】

◆職員配置

・専属管理人1名（9：00～17:40）

・その他、当施設職員

◆在宅サービスの活用

・介護保険サービス

・精神科デイケア

・配食サービス

【入居者】

氏名	年齢	疾病	HDS-R	介護度	在所日数
A	77	抑うつ状態	21	1	2,201
B	75	統合失調症	9	3	1,291
C	78	中等症うつ状態	18	2	1,855
D	77	統合失調症	24	2	118
E	83	うつ病	27	1	1,120

平成24年5月～入居スタート

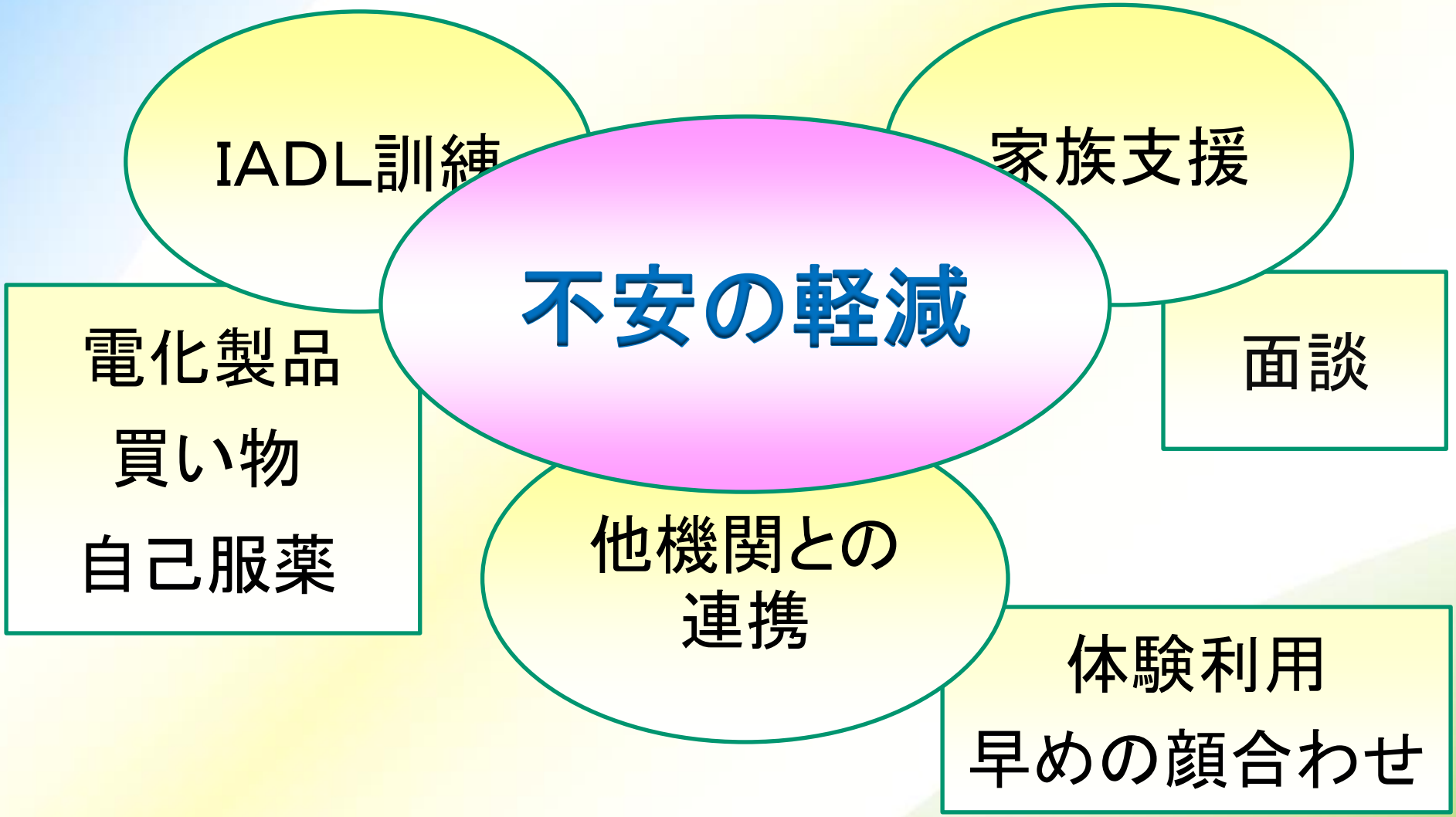
【入居前の準備】

IADL訓練

不安

電化製品
買い物
自己服薬

【入居前の準備】



【入居後の状況】

環境の変化～混乱

精神状態の悪化

認知症の進行

- ゴミの分別での混乱
- 食事の自己管理能力の低下
- 服薬困難
- 無断外出

【1．個別のニーズに応じた対応】

支援相談員

個別訪問
（面談）

入居職員・施設

夜間の巡回
緊急時対応

ケアマネ・管理人

サービス
調整

病　院

状態報告

【2. 相互交流の工夫】

入居者

孤独感の解消

職員の意識変化

談話室で食事
定例ミーティング
夕食作り

介護保険
サービス事業所

管理人・支援相談員

2階
精神障がい者

当施設職員：介護・看護・リハビリ・ケアマネ

【3. 地域連携会議】

主　催 :支援相談員

参加者:居宅介護支援事業所

訪問看護

訪問介護

通所リハビリテーション

病院ソーシャルワーカー

情報共有

連携

速やかな問題解決の場

【結果】

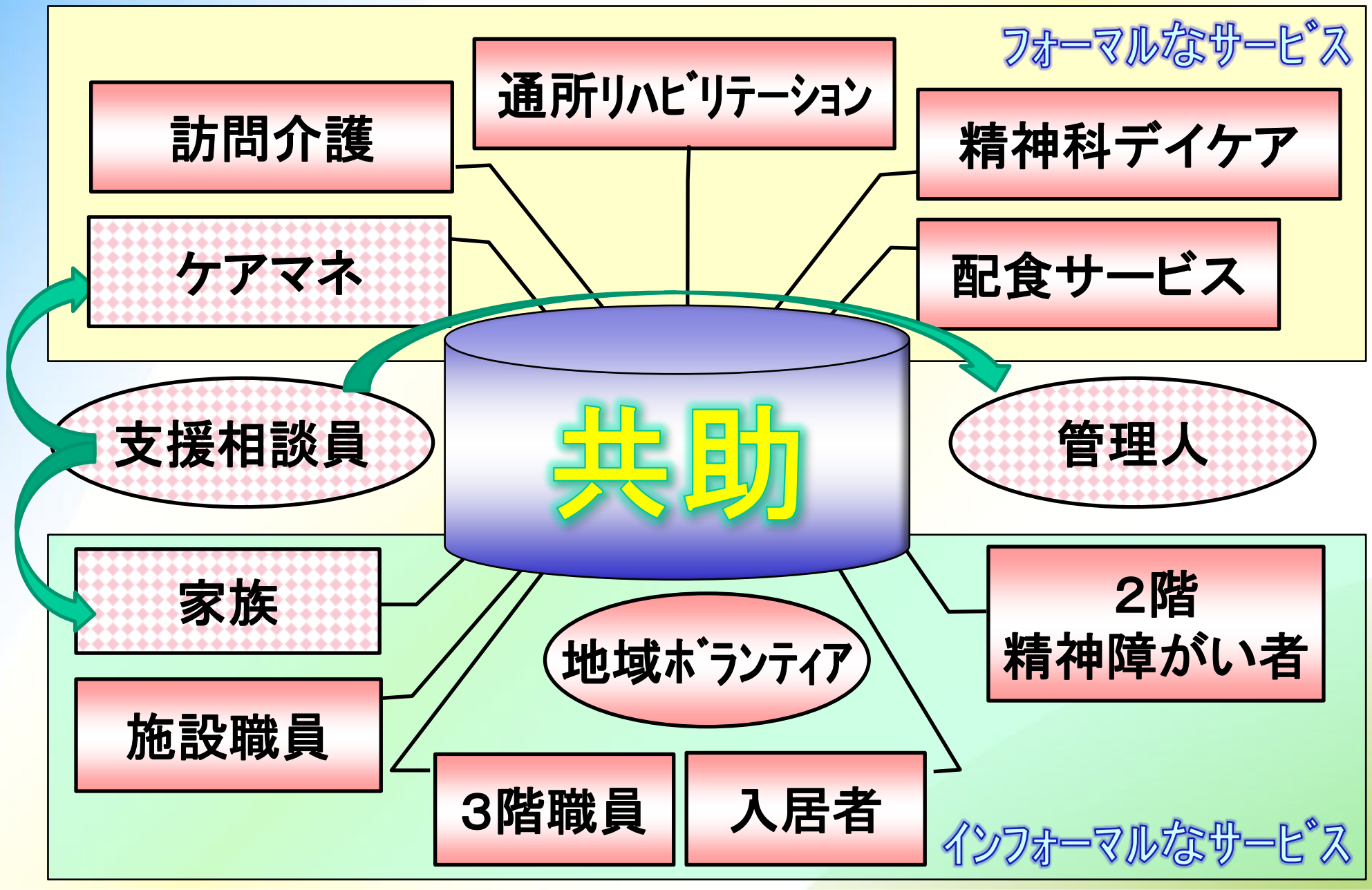
・4名が生活を継続（1名は再入所）
⇒「今の生活を一日でも長く続けたい」

・職員の意識変化
⇒在宅復帰に向けて積極的に取り組む

在所日数：729日 ⇒ 500日

在宅復帰・在宅療養支援加算の取得

【考察】


フォーマルなサービス
訪問介護
通所リハビリテーション
精神科デイケア
ケアマネ
配食サービス
支援相談員
共助
管理人
家族
地域ボランティア
2階
精神障がい者
施設職員
3階職員
入居者
インフォーマルなサービス

【まとめ】

・支援相談員として、介護保険サービスでは対応できない狭間の支援を行う。

・施設の役割を明確にし、家族の意識を変容する為の個別の関わりや月一回開催している家族会を活用しながら在宅復帰の可能性を模索していきたい。

ご清聴ありがとうございました
札幌市の花
ライラック（りら）です